

対面にならないメリットも

十人十色

4

子どもたちの今

昨春の一斉休校以来、教育現場でオンライン学習の機会が急増しています。賛否両論がある中、「対面だからできること」だけでなく、「オンラインだからこそできること」にも注目していきたいと思えます。

先日、ある中学生とオンラインで面談しました。その子は対人関係が苦手。対面では緊張しがちで視線を合わすこともままならず、自分の思いをうまく表現することができません。ですが、オンラインでは比較的円滑にコミュニケーションがとれ、自分の思いを打ち明けることができました。

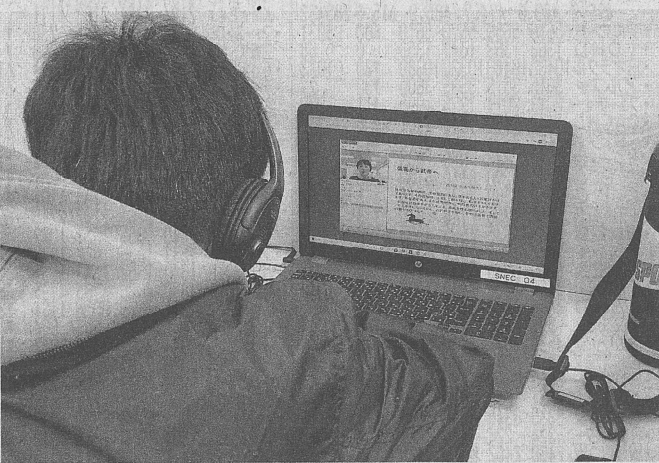
相手の目を見て話すことにストレスを感じてしまうのは、自閉症スペクトラム障害によく見

コロナ禍とオンライン学習

られる特性です。他人への関心の薄さもあいまって、結果的に相手の感情への理解、共感が乏しくなり、ズケズケとものを言ってしまうようになってしまっていることも少なくありません。

でも、画面越しだと、ストレスが緩和され、相手の表情をよく見ること、コミュニケーションが円滑になるようです。

また、別の大学生は、オンラ



オンラインで学習する若者

イン講義について話してくれました。大学に行けないのは寂しいし、時間管理や自己管理が難しい。すぐに質問ができずイライラすることもある、と。一方で▽他の学生の話し声や雑談が気にならない▽隣に人がいないので集中できる▽自宅ならエアコンなどで自分が快適な環境を設定できる——といったメリットも挙げてくれました。

もちろん「対面の方が話しやすい」「パソコンのカメラは緊張して話しにくい」という生徒もいます。対面の代替手段としてだけでなく、メリット、デメリットを整理し、日常生活の中で「オンラインという選択肢がある」という視点を持てると、より快適に生きられると思えます。

そのためにも、教育現場ではコロナ収束後も、対面とオンラインのハイブリッドで、それぞれの子どもに最適な環境を整えることが理想的ではないでしょうか。

(発達支援教室アットスクール 代表 鈴木正樹)